

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立小川高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、経営企画室長、教務主任 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒保健部主任、進路部主任、 計6名
- (4) 協議委員の構成
大学教授、近隣中学校長、自治会代表、PTA会長、前PTA会長、保護司、同窓会代表 計7名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和3年6月25日（金）内部委員6名、協議委員7名

- ・感染症対策のため書面開催
- ・協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
- ・学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
- ・本校の現状と課題等説明、意見書の提出

第2回 令和3年10月15日（金）内部委員6名、協議委員7名

- ・これまでの教育活動に関する報告
- ・協議委員からの教育活動に対する意見

第3回 令和4年3月4日（金）内部委員6名、協議委員7名

- ・感染症対策のため書面開催
- ・これまでの教育活動に関する報告、学校評価アンケート集計結果
- ・協議委員からの教育活動に対する意見（意見書の提出）、今年度のまとめ

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和3年10月15日（金）内部委員1名、協議委員2名

- ・学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析と考察
- ・今年度の学校評価の実施に向けた、内容や実施時期の検討

第2回 令和4年3月4日（金）内部委員1名、協議委員2名

- ・感染症対策のため書面開催
- ・アンケート集計結果の分析や考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校の教育活動への理解」「学校の実践と対応」の観点で実施する。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：852人 | 回収：796人 | 回収率：93% |
| ・12月 保護者全員 | 対象：852人 | 回収：495人 | 回収率：58% |
| ・12月 地域・住民 | 対象：70人 | 回収：60人 | 回収率：86% |
| ・12月 教職員 | 対象：45人 | 回収：39人 | 回収率：87% |

- (3) 主な評価項目

入学満足度、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、環境美化、家庭との連絡・相談、情報発信、体罰、教員のライフワークバランス（働き方改革）、地域など。

(4) 評価結果の概要、分析・考察

①入学満足度・学校生活満足度

- ・本校への入学について、生徒と保護者は約9割が肯定的であり、教職員が考える以上に、生徒・保護者の満足度は高い。
- ・学校生活の充実は、感染症の渦中でも約9割の生徒が肯定的にとらえている。

②学習指導

- ・授業方法の工夫や、学力向上や進路実現との関連については、生徒より教職員の方が高く評価している。保護者は「わからない」の回答が多く、授業公開などを通じて関心を高めていく必要がある。
- ・主体的な活動を取り入れた授業は、生徒より教職員の方がやや高めに評価している。
- ・家庭学習時間は、ほぼ半数が1日1時間だが、約3割が1日30分未満であり、課題ととらえる。
- ・読書率は、月に1冊以上が4割にとどまり、読書活動の推進が課題である。

③生活指導

- ・校則の順守、時間の管理、校内での挨拶については、教職員はやや厳しめに評価しているが、全体的に見ると良好である。
- ・SNSなどの情報モラルは、生徒はかなり肯定的に考えているが、教職員・保護者はさらなる指導の必要性を感じている。
- ・登下校のマナーは、生徒・保護者は肯定的に、教職員はやや厳しめに評価している。生徒はマナーについて個人的な視点で見ているが、教職員は全体を視野に入れて評価していることが原因かもしれない。地域は、マナーに否定的な割合が若干アップしている。感染症の影響による自転車通学の増加が原因かもしれないが、自転車の乗り方や交通ルール遵守など、継続的な指導が必要である。

④進路指導

- ・進路指導については、全体的に（特に生徒が）肯定的な評価であるが、保護者は約2割が否定的な意見である。感染症が原因で、保護者対象の進路行事が延期になってしまっていたことが原因と思われるが、3月に実施することができた。

⑤特別活動・部活動

- ・学校行事については、生徒・教職員ともに肯定的な意見が増えた。昨年は感染症により多くの行事が中止となり、今年は実施できたことにより増加したと思われる。
- ・部活動は、全体的に肯定的な評価である。

⑥健康・安全

- ・体調不良や怪我の対応、避難訓練や交通安全指導は、全体的に肯定的に評価している。保護者は「わからない」が多いのはやむを得ないが、訓練を実施した様子をホームページなどで公開するなど情報提供をしていく。
- ・生徒が抱える悩みへの対応は、全体的に肯定的な意見である。

⑦環境美化

- ・清掃活動や校内美化については、教職員がやや厳しめに、全体的には肯定的に評価されている。

⑧情報発信

- ・ホームページの閲覧は「年に数回」「見たことがない」が、生徒・保護者の過半数を超えており、さらなる充実が必要である。

⑩体罰

- ・体罰防止の取り組みは、全体的に昨年度よりも肯定的な意見が増えている。

⑪教職員のライフワークバランス（働き方改革）

- ・ライフワークバランスの実現については、教職員の6割が肯定的にとられている。
- ・ライフワークバランスの実現への取り組みについて、生徒・保護者・地域・地元中学校長ともに、昨年よりも理解を深めている。これは、働き方改革の理解が広がっていることが理由か。

⑫地域

- ・地域社会との連携は、地元からの期待が大きくなっている。地域と連携した防災訓練の実施などを実現していく。
- ・地域の小中学校との連携は、感染症の影響が大きく「わからない」が多かった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

感染症拡大防止の取り組みに理解が得られた。学校評価アンケートへの意見は、協議委員から「意見書」を提出していただき、学校評価アンケートの改善に結び付いた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

感染症対策のため、第2回のみを開催し、第1回と第3回は書面開催であった。そのため、例年と比較して、十分な協議がなされたかは疑問が残る。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

学校評価アンケートの結果（数値・記述）を分析したことで、本校の実態を再認識し、必要な改善を図るための手がかりにすることができた。

(2) 学習指導

生徒の学習意欲と基礎学力を向上させ、「思考力、判断力、表現力」の充実を目指して、教材の研究やICTを用いた効果的な指導など、さらなる指導力の向上が求められていることを共通理解できた。

(3) 生活指導

遅刻や登下校のマナー、交通事故防止などの基本的な生活習慣の確立、校内環境美化を、学校全体で推進していく必要性が見いだせた。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 4人（書面開催のため協議委員7人中4人が回答）

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 4

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
3	1	0	0	0	0	3

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

今回、学校評価アンケートは、Teamsのアンケート機能を利用して実施した。保護者からの回答率が昨年より17ポイント上昇した。また、集計の作業効率が著しく向上した。